議　事　概　要

1　会　議　名	令和８年度第１回太宰府市総合交通計画協議会
2　開 催 日 時	令和８年１０月２８日（水）１５：００～１６：００
3　開 催 場 所	太宰府市役所　４階大会議室
4　出 席 者 名	【委員】 大枝委員（会長）、下川委員、日宇委員、髙橋委員、長委員、溝田委員、堀委員、河野委員、濱脇委員、赤塚委員（副会長）、辺輪委員、宮原委員
5　議　　題	【議事】 議題　太宰府市総合交通計画　事業・プロジェクト（案）について

6　内　　容

事務局	（開会挨拶）
石田副市長	（挨拶）
	（傍聴人入室）
事務局	議事に入る。進行については、太宰府市総合交通計画協議会規則第 6 条の規定により大枝会長にお願いする。
	【議題　太宰府市総合交通計画　事業・プロジェクト（案）について】
事務局	（資料説明）
大枝会長	事務局からの説明にもあったが、資料 1 の 9 ページの体系図の事業・プロジェクトの 22 から 31 について、まずは議論したいと考えている。 基本方針が大きく 3 つ掲げられており、方針 1 が円滑で快適な交通環境の構築、方針 2 が安心安全な交通環境の構築、方針 3 がまちづくりと一体になった交通環境の構築となっている。 方針 1 と 2 の事業・プロジェクト 1 から 21 については、これまでの協議会で議論し了承を得ている内容となる。 今日は、事業・プロジェクトの 22 から 31 を議論してから、1 から 21 に関してもご

	意見等があれば議論したいと考えている。 方針 3 のまちづくりと一体になった交通環境の構築は、目標 1 としては交通結節機能の向上となり、例えば駅やバスターミナルといった様々な交通が重なり合うようなところをどのように効率的に作っていくかということになる。 目標 2 がこれから脱炭素社会というのが非常に求められているため、それを実現するのかというところであり、目標 1 と 2 を受けて事業・プロジェクトの 22 から 31 を考えているところとなる。
委員	資料 1 の 11 ページの 22.駅周辺の利便性向上の検討において、JR 太宰府駅（仮称）等の新駅構想の記載があるため、周辺環境等を考慮しながら一緒に検討していきたいと考えているため、是非よろしくお願いしたい。 太宰府市西側の JR 九州の路線が走っているところの地形の考え方で確認したいのだが、この新駅の構想がある場所、既存の駅がある場所は、太宰府市の市域が少し細くなっている地形となる。 市域の東西で異なっている部分であり、JR 駅と接続する二次交通の交通結節機能を向上させる場合、大野城市や筑紫野市とも連携をして移動をしっかりと支えていくことが重要であると考えている。 そういったことも含めて、資料 1 の 15 ページの 26.地域公共交通の広域連携強化を位置付けていることで、太宰府市西側の地形の課題を広域的な連携を実施することで、地域交通をつないでいくという認識でいいか。
事務局	26.地域公共交通の広域連携強化については、昨今の運転士不足や様々な全国的な問題・課題がある中で、本市単独で解決していくのは難しい状況になっている。 佐野東地区周辺においても、筑紫野市との市境が交錯している地域になるため、本市単独ではなく、例えば筑紫野市や大野城市と連携していく必要性は十分認識している。 今後、どういった連携の手法があるのかといった点になるが、資料説明でも申し上げたが、直接乗り入れをする可能性もあれば市境付近で連携して乗り継いでいただく方法もある。 様々な手法を用いて、広域連携について検討を進めていく。
委員	太宰府市に限らず、当社の路線は自治体の枠を超えて長く運行してきている。 地域にお住まいの方にとっては、自治体の境界はあまり関係ないということが利用者目線であると考えており、自治体内に留まらず広域的に考えて、我々と一緒に交通拠点として連携していくことが必要になっているという声もよく聞いている。 ぜひ太宰府市においてもそういった目線で様々な連携をしていきたい。
赤塚副会長	事務局の説明では、渋滞が発生している地域は、既に市街地が形成されているとのことだったが、私の北九州市の実家で道路拡幅の立ち退きの経験がある。 その難しさも理解しているが、拡幅された後は通りが良くなったということも感じている。

	1年とか5年かけてもできることではなく、実家の立ち退きも10年以上かけて行政と交渉してきたが、やはりそういうことも考えていかないといけない。 現在の道路の幅員が、まだ車も小さくて交通量も少なかった時代の規格のままであり、バスでも車体が大きくなっているため、道路拡幅も考えていかないと無理ではないかと感じている。
事務局	特に県外ナンバーやレンタカーは車内空間を快適にすることで、移動に負担がかからないよう、車体が大きいワンボックスカーで来訪いただいている。 五条交差点から天満宮駐車場へ向かう道路においても、そういった車体が大きな車が行き来しており、渋滞していることも市も認識している。 道路拡幅については、全く実施しないということではなく、費用面や地権者の意向や事業期間も長期間かかることになることも考慮する必要がある。ハード面では補えない部分は、ソフト面を実施しながら渋滞の緩和を目指していきたいと考えている。 道路を拡幅した場合、目的地への移動はスムーズになると考えられるが、終着地の容量が足りていなければ、渋滞や混雑は発生するため総合的に検討したうえで対策を考えていく必要がある。
大枝会長	他にご意見等がなければ、事業・プロジェクトの22から31はご了承いただけたということで本協議会の結論としたい。 その他、太宰府市の交通で委員皆様方が感じていること等があればお聞かせいただきたい。 特になければ私から事務局へお聞きしたい。 前任の委員で観光関係に従事していた委員がいたが、自転車を使ったまちづくりの提案があった。 確かに太宰府市は学生も多く、自転車が走る機会が多いと考えている。 加えて、太宰府市の観光も太宰府天満宮だけではなく、大宰府政庁跡等もあるため、周遊するには自転車は有効なツールでもあるが、いかがか。
事務局	参考資料1の34ページの19.自転車道路等の整備検討において、歩行者、自転車の安全性・快適性向上の観点から自転車通行空間の整備体系を検討していく必要があることから位置付けている。 自転車を最も使用するユーザーは児童、生徒、学生であり、通学以外にも使用することから安全に通行できるような通行空間が必要であると考えている。 既存道路に自転車が安全に通れる空間をどれだけ確保できるかが今後の課題と認識している。 道路幅員が限定される場合、車道と混在するパターンや歩道や自転車通行帯が確保できる状況であれば、専用通行帯を整備することが可能であるため、道路の形状によって様々な整備形態を検討することとなる。国・県・市の道路管理者も委員に含まれていることから、どの整備形態が安全に通行できるのかを含めてそれぞれの関係機関と今後協議を進めていけたらと考えている。

大枝会長	それでは、議題については審議を終了する。 本日協議した内容で素案が作成され、パブリック・コメントが実施することとなるが、その前に委員へ素案の確認依頼がされる。 委員が確認いただくことはもちろん、交通事業者、道路管理者、行政機関も確認いただくことになる。 【意見なし】 了承いただいたということで、事務局は作業を進めていただきたい。 本日の議題は以上となるため、進行を事務局にお返しする。
事務局	（閉会挨拶）